

二日市町2号線歩道整備工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

## 二日市イシバチ遺跡 6

2015

石川県野々市市教育委員会

# 例 言

- 1 本書は、二日市イシバチ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在地は、石川県野々市市二日市町地内である。
- 3 発掘調査原因は二日市町2号線歩道整備工事にともなうものである。
- 4 発掘調査期間・面積・担当者等は以下のとおりである。

- ・現地調査期間 平成20年6月25日～7月9日  
平成25年7月30日～8月23日
- ・現地調査面積 252㎡
- ・現地調査担当者 永野勝章(野々市市教育委員会文化振興課職員)  
多間 聖(野々市市教育委員会文化振興課職員)
- ・報告書執筆・編集 田村昌宏(野々市市教育委員会文化振興課職員)
- ・出土品写真撮影 菊地由里子(野々市市教育委員会臨時職員)
- ・報告書編集補助 菊地由里子

- 5 本における遺構名称の略号は右記のとおりである。 竪穴建物：SI SK：土坑 溝：SD 小穴：P
- 6 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。



第1図 野々市市位置図

## 第1章 経緯と経過

本書の二日市イシバチ遺跡発掘調査は、二日市町地内における歩道整備工事を調査原因とする。この歩道工事は、JR西日本北陸線に隣接して行われた北陸新幹線整備工事に付随したものである。平成20年5月20日野々市町産業建設部長から当該地における埋蔵文化財調査の依頼があった。当該地は埋蔵文化財包蔵地であったため、発掘調査が必要となった。工事担当課である野々市町建設課と野々市町教育委員会は協議を重ね、発掘現地調査を平成20年度と25年度に実施し、出土品整理及び報告書刊行を平成26年度に行うこととした。現地調査については、平成20年度は6月25日に開始して7月9日に完了し、平成25年度は7月30日に開始し8月23日に終了した。平成26年より出土品整理を開始し、報告書の執筆・編集を経て、平成27年3月28日に報告書を刊行した。



第2図 遺跡・調査区位置図

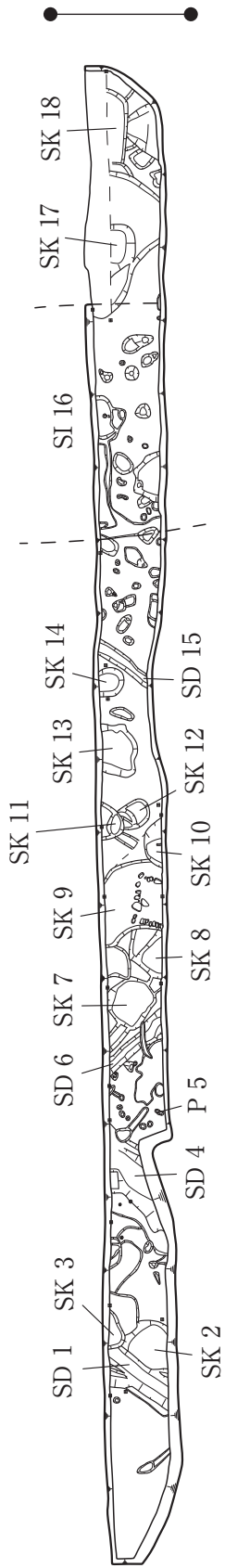
## 第2章 遺構と遺物

### 第1節 遺構

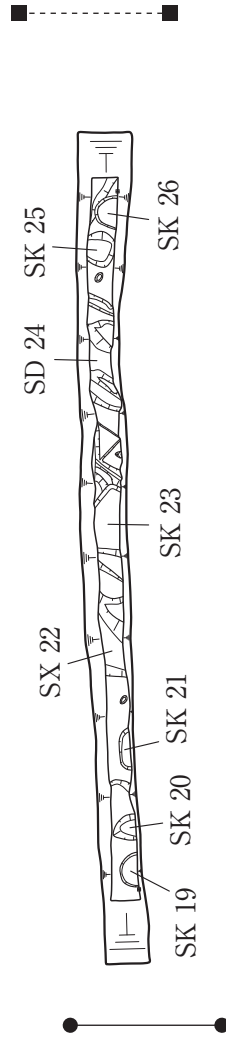
- ・SD 1 (第3・4図)  
N6° E の方位をした溝である。幅約110cm、長さ約260cm、深さ約55cmを測る。
- ・SK 2 (第3・4図)  
SD1、SK3と切り合っており、形状は不明である。東西長約150cm、南北長約180cm、深さ約33cmを測る。
- ・SK 3 (第3・4図)  
北半分は調査区外に延びており、全容は不明である。東西長約140cm、南北長60cm以上、深さ約14cmを測る。
- ・SD 4 (第3・4図)  
N6° E の方位をした溝である。幅約180cm、長さ約200cm、深さ約78cmを測る。
- ・P 5 (第3・4図)  
東西長約48cm、南北長約18cm、深さ約14cmの三角形に近い穴である。
- ・SD 6 (第3・5図)  
W17° N の方位をした溝である。幅約50cm、長さ約250cm、深さ約22cmを測る。
- ・SK 7 (第3・5図)  
隅丸長方形の土坑で、長辺約170cm、短辺約155cm、深さ約70cmを測る。
- ・SK 8 (第3・6図)  
隅丸長方形で南半分は調査区外に延び、全容は不明。規模は140×120cm以上、深さ約70cmを測る。
- ・SK 9 (第3・5図)  
掘方の際に石が組まれた土坑で、形状は不明である。東西長約240cm、南北長約200cm、深さ約40cmを測る。
- ・SK 10 (第3・6図)  
略円形をするが、南半分は調査区外のため全容は不明。東西長約190cm、南北長60cm以上、深さ約35cmを測る。
- ・SK 11 (第3・6図)  
北半分は調査区外となるため、形状は不明である。東西長約130cm、南北長80cm以上、最深部約28cmである。
- ・SK 12 (第3・6図)  
北端はSK11に切られている。形状は楕円形で、長辺約120cm以上、短辺約90cm、最深部約30cmである。
- ・SK 13 (第3・6図)  
歪な隅丸方形で、北半分は調査区外となる。東西長約180cm、南北長125cm以上、深さ約20cmである。
- ・SK 14 (第3・6図)  
楕円形をしており、北半分は調査区外となる。東西長約100cm、南北長90cm以上、深さ約40cmである。
- ・SD 15 (第3・9図)  
N3° E の方位をした溝である。幅約50cm、長さ約210cm、深さ約23cmを測る。
- ・SI 16 (第3・7図)  
(財)石川県埋蔵文化財センターが北隣で調査した際発見した堅穴建物の一部にあたる。規模は東西約8.0m、深さ約10cmで、西端には周溝がある。貼床はない。県の所見では、Pア～ウを堅穴の柱穴としているが、今一度検討を要する。
- ・SK 17 (第3・8図)  
南北の調査区外に延びるため、形状は不明である。東西長約520cm、南北長180cm以上、最深部約38cmである。
- ・SK 18 (第3・8図)  
隅丸方形であるが北半分は調査区外のため全容は不明。東西長約290cm、南北長80cm以上、深さ約40cmを測る。
- ・SK 19 (第3・9図)  
略円形で南半分は調査区外となる。東西長約110cm、南北長60cm以上、深さ90cm以上である。井戸と思われる。
- ・SK 20 (第3・9図)  
略楕円形で南半分は調査区外となる。東西長約90cm、南北長75cm以上、深さ約15cmである。
- ・SK 21 (第3・9図)  
略楕円形で南半分は調査区外となる。東西長約140cm、南北長35cm以上、深さ約10cmである。
- ・SX 22 (第3・9図)  
東西長約230cm、南北長90cm以上、深さ約25cmを測る。溝になるかもしれない。
- ・SK 23 (第3・10図)  
調査区が狭小のため形状は不明。東西長約230cm、南北長75cm以上、深さ約25cmを測る。
- ・SD 24 (第3・10図)  
N3° E の方位をした溝である。幅約110cm、長さ約100cm、深さ約25cmを測る。
- ・SK 25 (第3・10図)  
略隅丸方形で北端は調査区外となる。東西長約110cm、南北長90cm以上、深さ約30cmである。
- ・SK 26 (第3・10図)  
略楕円形の形状で、東西長約100cm、南北長75cm以上、深さ70cm以上を測る。井戸かもしれない。



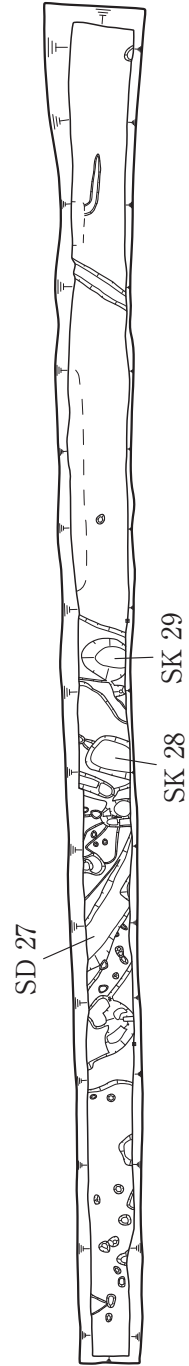
A 区 (平成 20 年度調査)



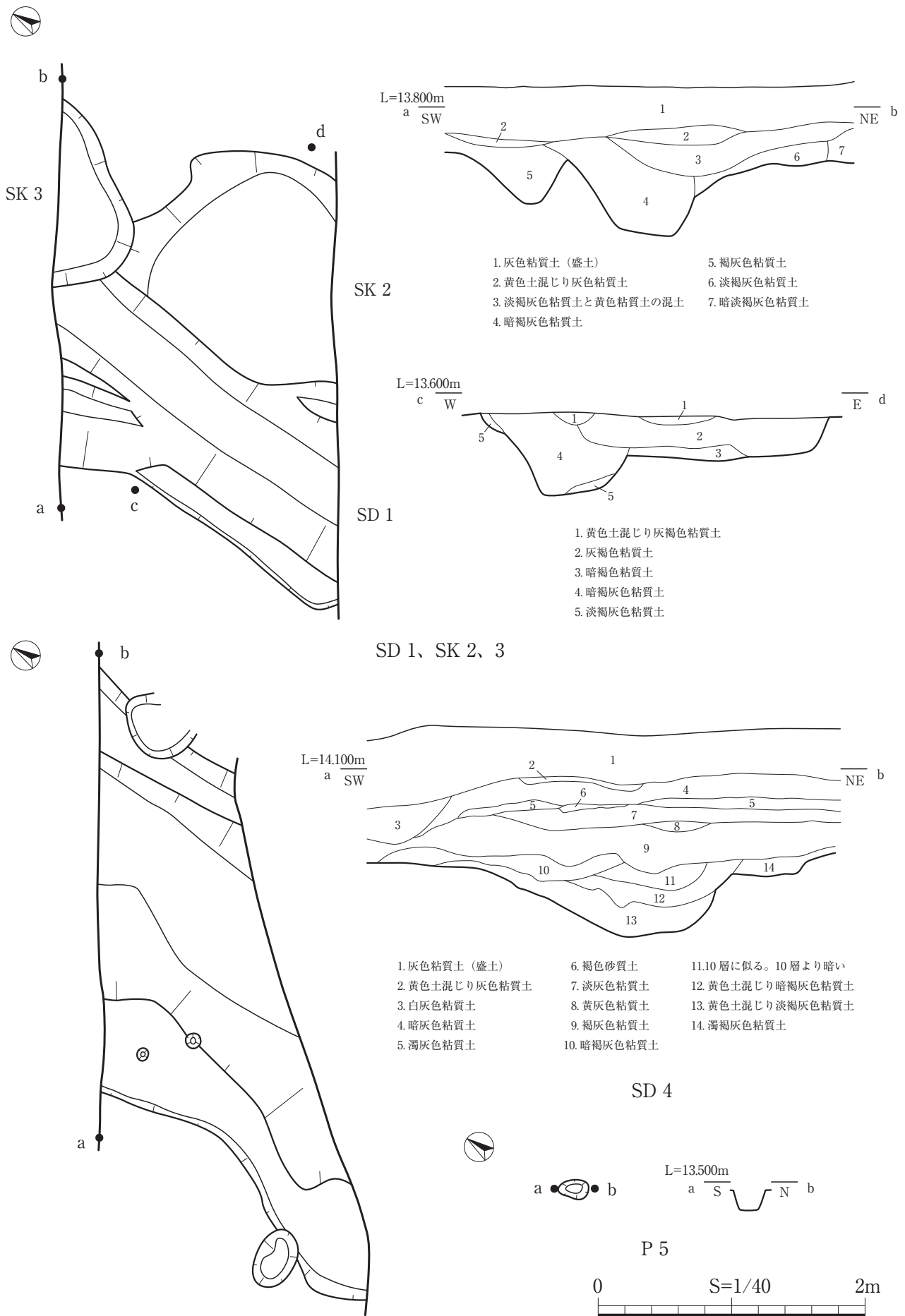
B 区 (平成 25 年度調査)



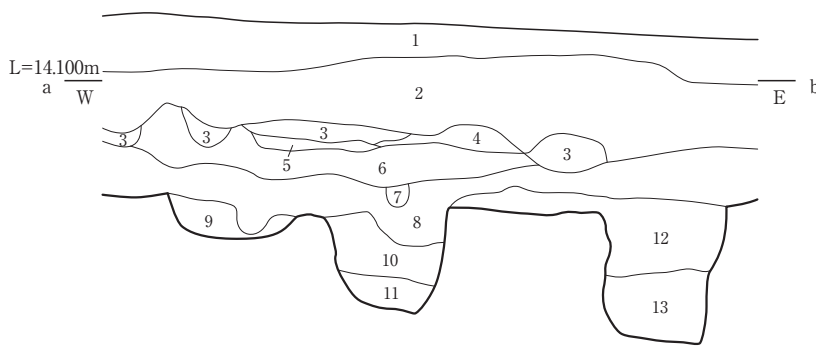
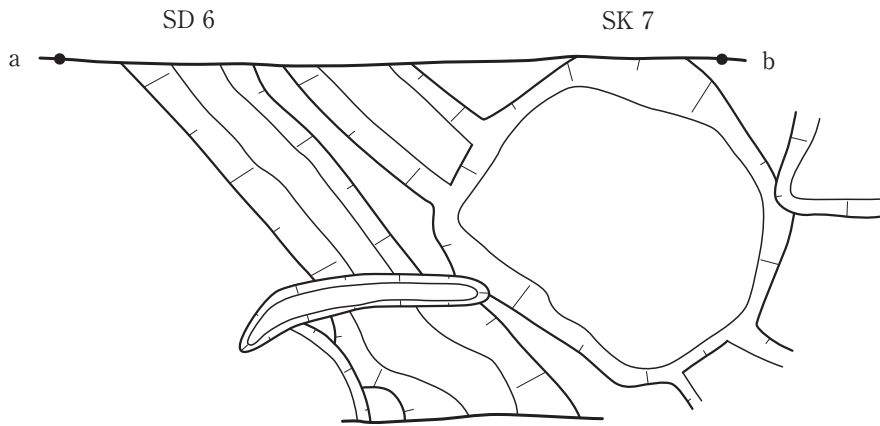
C 区 (平成 25 年度調査)



第3図 遺構全体図 (S=1/250)

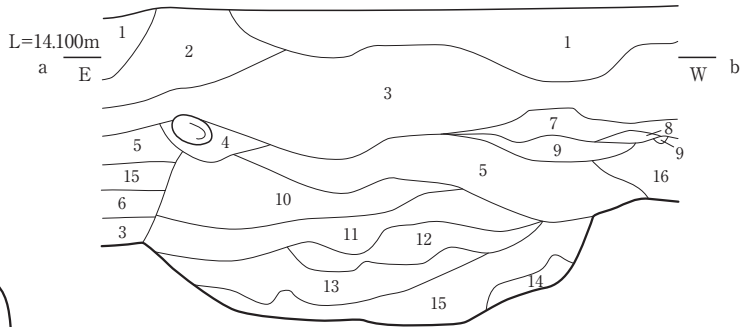
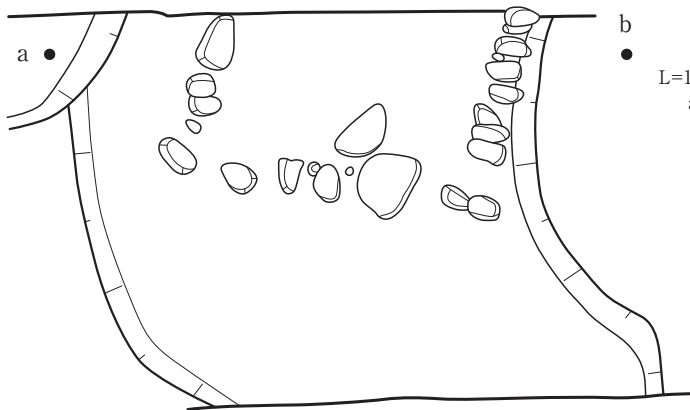


第4図 SD 1、4、SK 2、3、P 5、遺構図・土層断面図 (S=1/40)



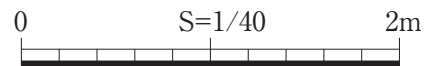
- 1. 盛土
- 2. 明灰色粘質土
- 3. 黄色土混じり灰色粘質土
- 4. 濁褐色粘質土
- 5. 黒色土混じり濁褐色粘質土
- 6. 褐色粘質土
- 7. 黄色土少混じり褐色粘質土
- 8. 明褐色粘質土
- 9. 黄色土混じり明褐色粘質土
- 10. 暗灰色粘質土
- 11. 礫混じり暗灰色粘質土
- 12. 黄色土混じり褐色粘質土
- 13. 褐色土少混じり黄色砂質土

SD 6、SK 7

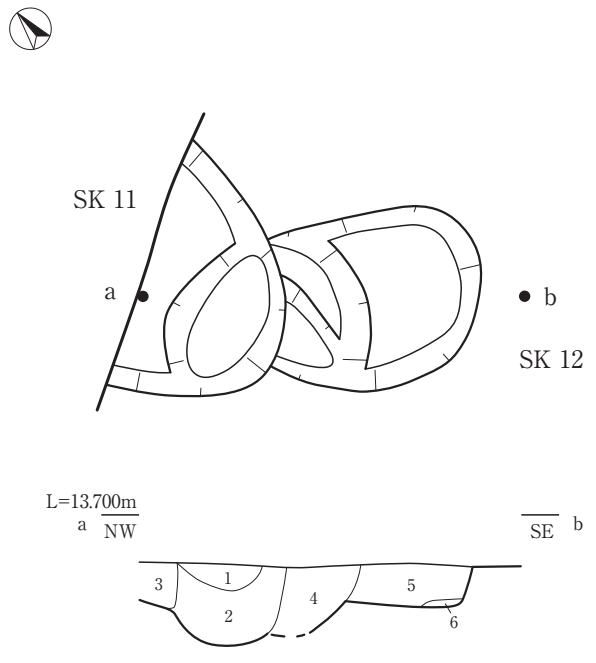
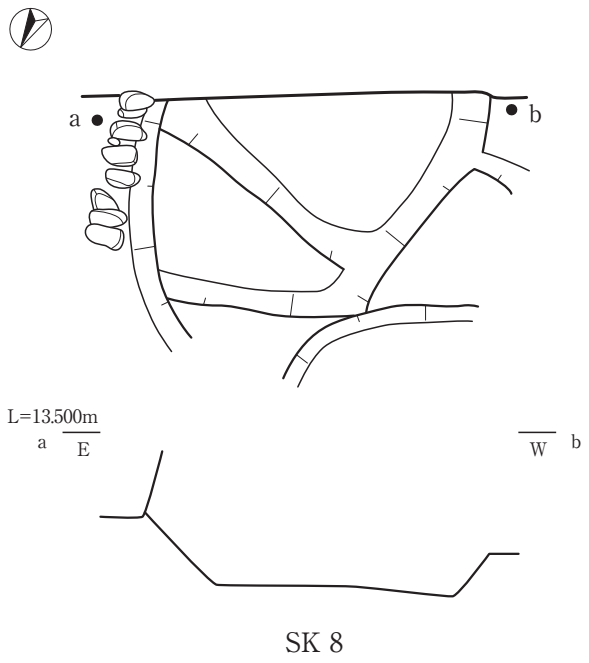


- 1. 盛土 1
- 2. 盛土 2
- 3. 褐色粘質土
- 4. 灰色粘土
- 5. 暗褐色粘質土
- 6. 灰色粘質土
- 7. 褐色土、黒色土混じり黄色粘質土
- 8. 明灰褐色粘質土
- 9. 黄色土混じり褐色粘質土
- 10. 礫混じり褐色砂質土
- 11. 暗灰色粘質土
- 12. 灰色土混じり黄色砂質土
- 13. 黄色土混じり灰色粘質土
- 14. 黄色土混じり暗褐色粘質土
- 15. 礫(大)混じり灰色粘質土
- 16. 明灰色粘質土

SK 9

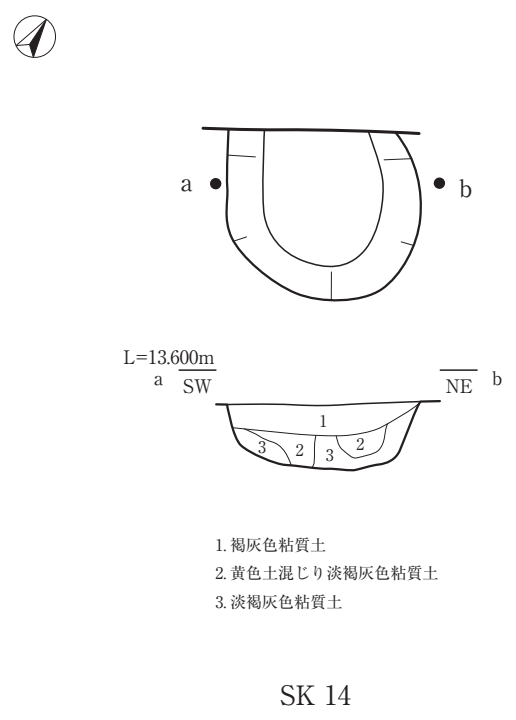
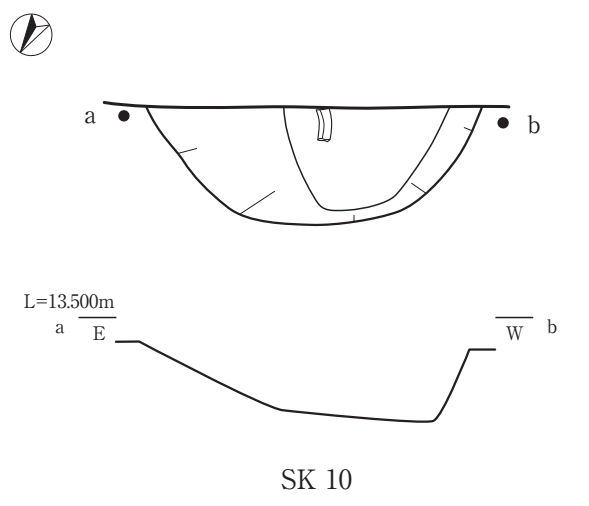


第5図 SD 6、SK 7、9 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

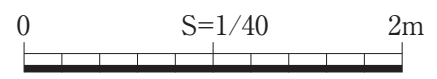
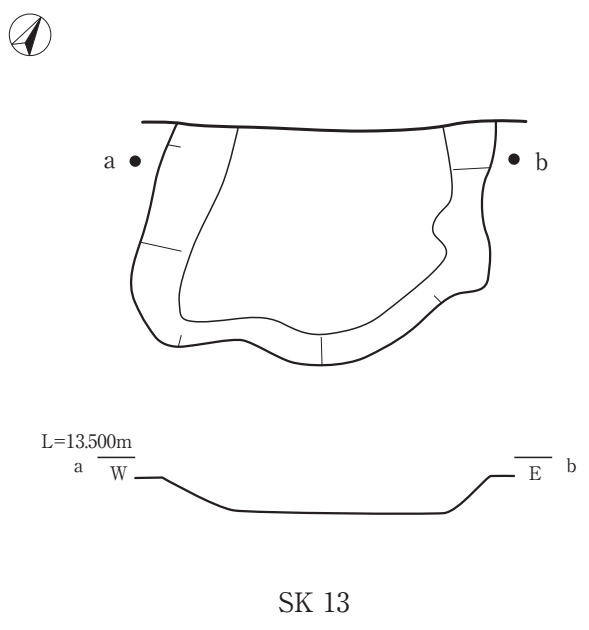


1. 褐灰色粘質土
2. 淡褐灰色粘質土
3. 礫混じり褐灰色粘質土
4. 濁褐灰色粘質土
5. 礫混じり淡褐灰色粘質土
6. 灰褐色粘質土

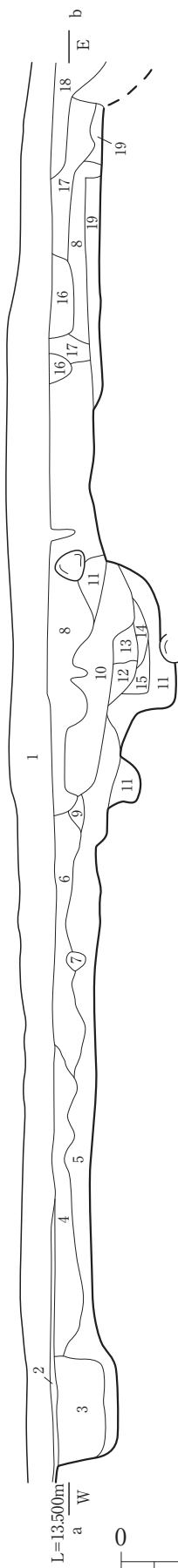
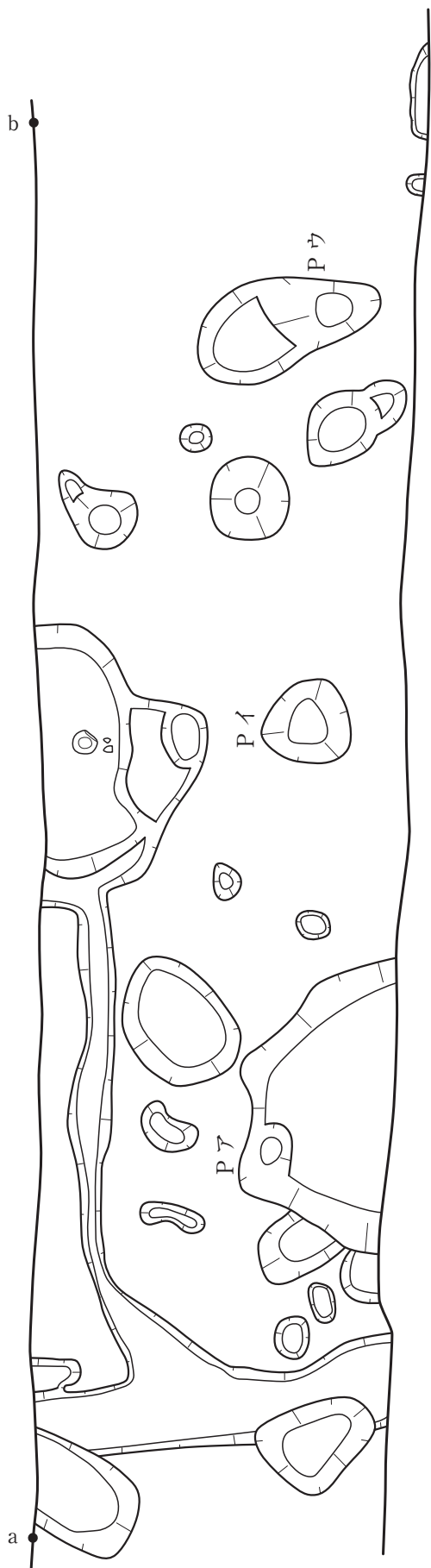
SK 11、12



1. 褐灰色粘質土
2. 黄色土混じり淡褐灰色粘質土
3. 淡褐灰色粘質土



第6図 SK 8、10～14 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

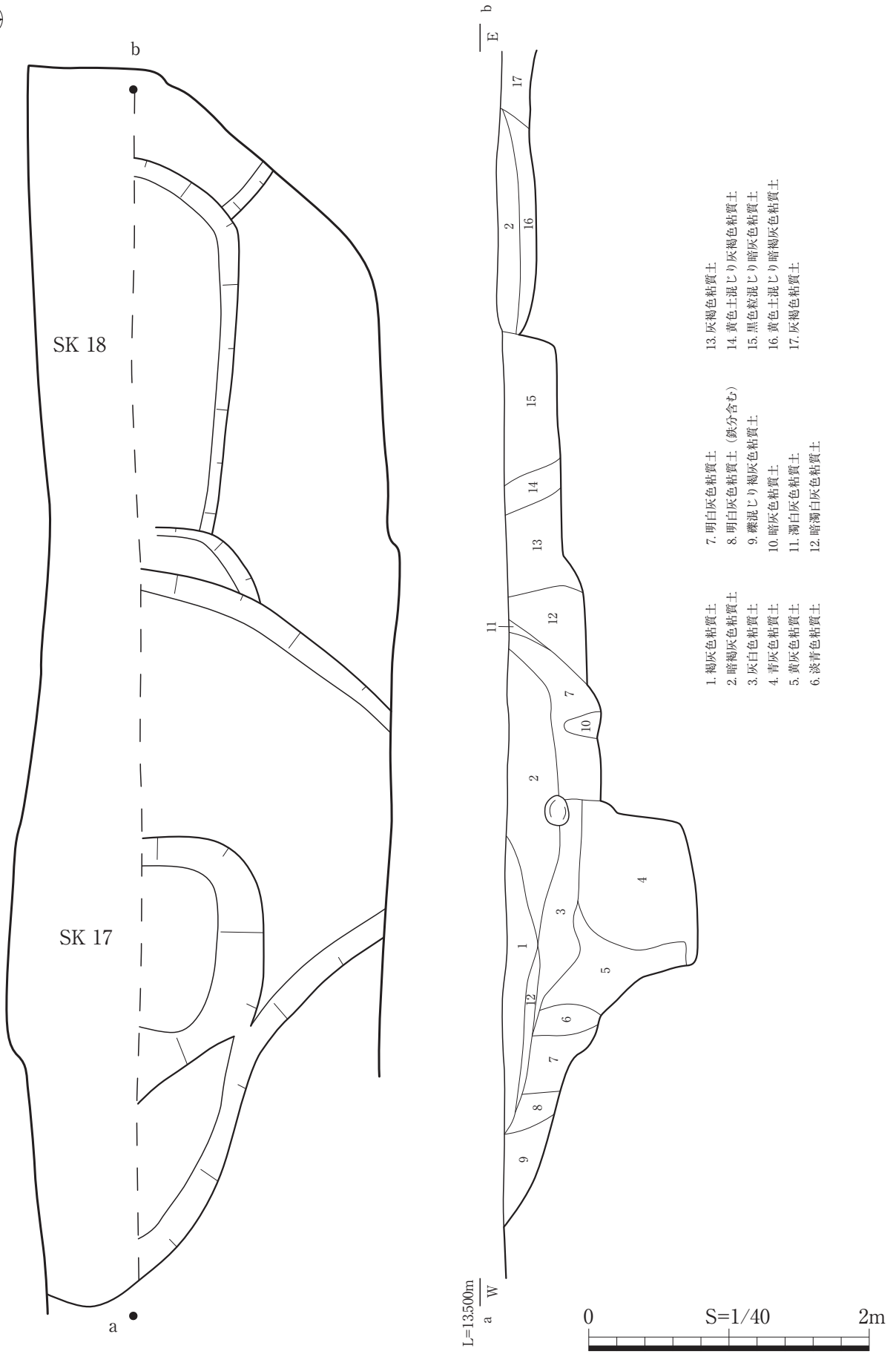


- |                  |                      |                    |
|------------------|----------------------|--------------------|
| 1. 耕土            | 11. 濁灰色粘質土           | 16. 褐橙色粘質土         |
| 2. 床土            | 12. 赤橙色粘質土           | 17. 暗褐色粘質土         |
| 3. 濁灰色粘質土        | 13. 暗赤橙色粘質土          | 18. 灰白色粘土          |
| 4. 濁灰色粘質土 (赤み強い) | 14. 濁褐色粘質土 (焼土)      | 19. 淡灰色粘質土混じり黄色粘質土 |
| 5. 炭化物混じり灰褐色粘質土  | 15. 暗褐色粘質土 (14層より暗い) |                    |
| 6. 褐色土混じり濁灰色粘質土  |                      |                    |
| 7. 褐橙色粘質土 (焼土)   |                      |                    |
| 8. 褐色粘質土         |                      |                    |
| 9. 濁褐色粘質土 (焼土)   |                      |                    |
| 10. 暗褐色粘質土       |                      |                    |

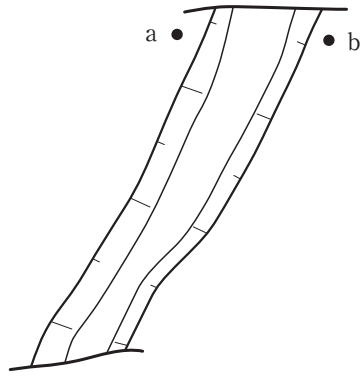
0 S=1/40 2m

第7図 SI 16 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

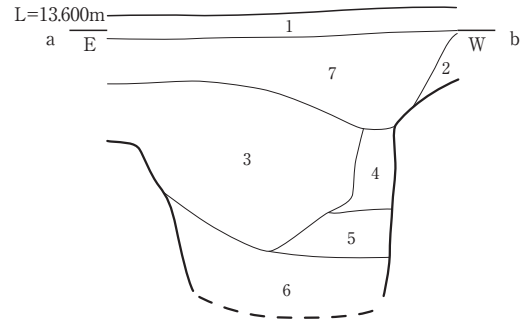
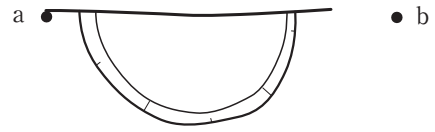




第8図 SK 17、18 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



SD 15

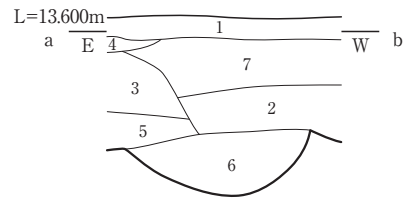
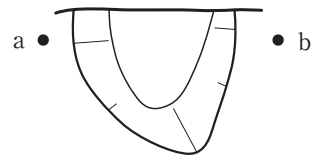


- 1. 耕土
- 2. 黄色土 (2.5Y7/8) 混じりにぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土
- 3. 礫混じり黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土
- 4. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
- 5. 黒褐色土 (10YR3/2) 混じり黄色粘質土 (2.5Y8/6)
- 6. 黒褐色 (10YR2/3) 粘質土
- 7. ぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土

SK 19

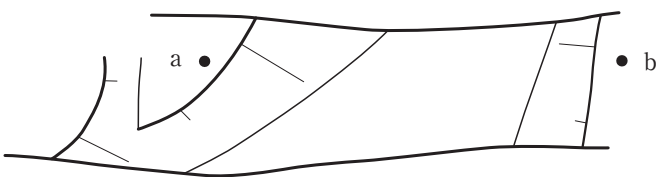


SK 21

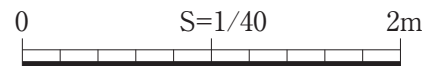


- 1. 耕土
- 2. 礫混じり黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土
- 3. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
- 4. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土 (鉄分混じる)
- 5. 礫混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
- 6. 礫混じり黒褐色 (10YR2/3) 粘質土
- 7. ぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土

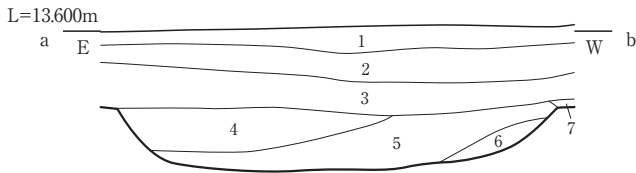
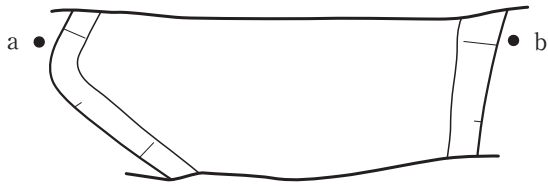
SK 20



SX 22

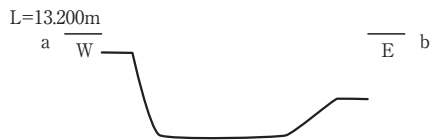
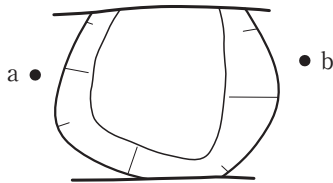


第9図 SD 15、SK 19～21、SX 22 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

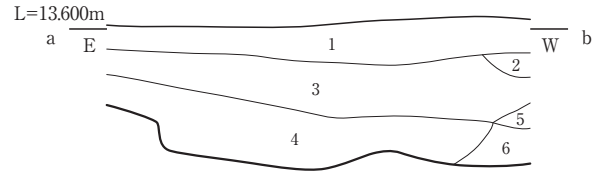
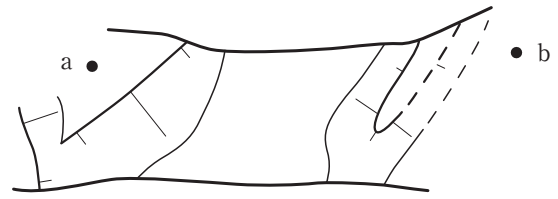


- 1. 耕土
- 2. 床土
- 3. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
- 4. 礫混じり灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
- 5. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
- 6. 黄色土 (2.5Y8/6) 混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
- 7. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 (鉄分混じる)

SX 23

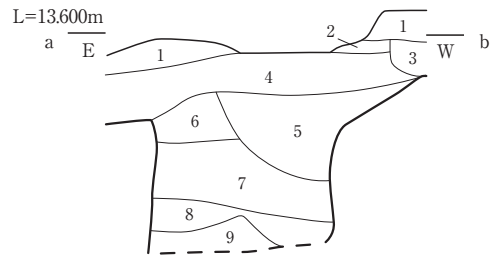
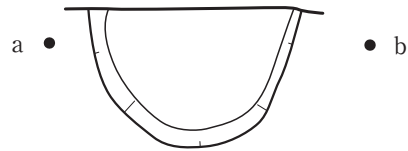


SK 25



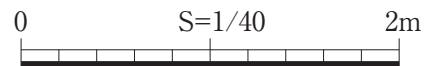
- 1. 耕土
- 2. 床土
- 3. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
- 4. 礫混じり灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
- 5. 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
- 6. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土

SD 24

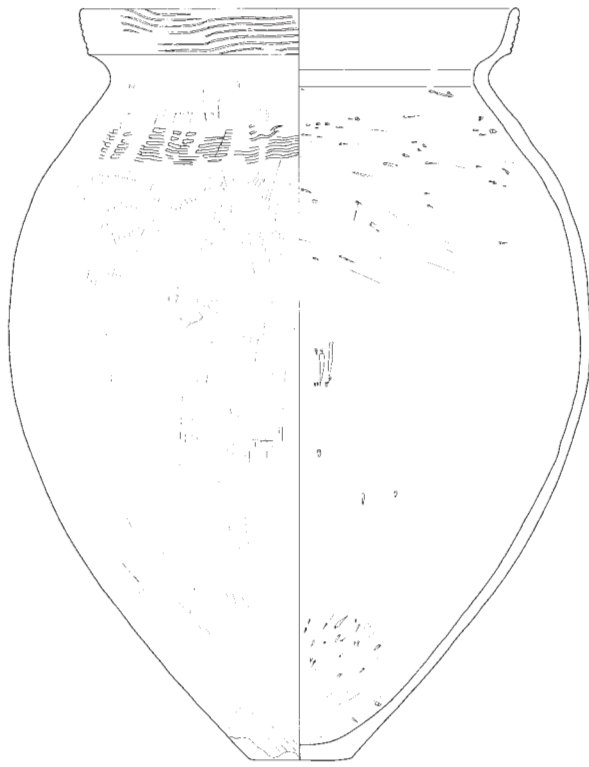


- 1. 耕土
- 2. 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
- 3. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
- 4. 黄色土 (2.5Y7/8) 混じりにぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土
- 5. 礫混じり黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土
- 6. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
- 7. 黒褐色 (10YR3/2) 粘質土
- 8. 黄色土 (2.5Y8/6) 混じり黒褐色粘質土 (10YR3/2)
- 9. 黒褐色 (10YR2/3) 粘質土

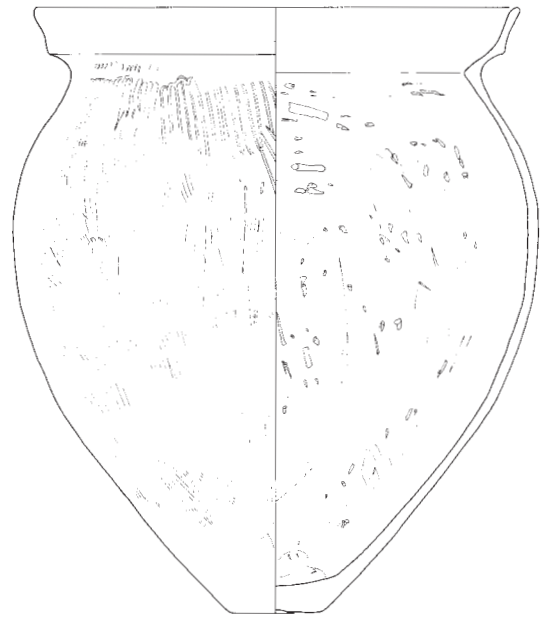
SK 26



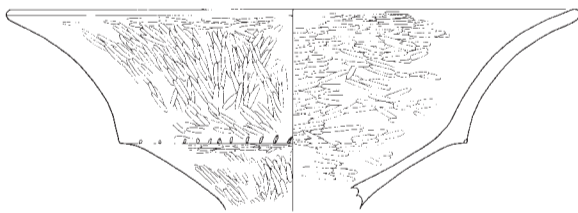
第 10 図 SX 23、SD 24、SK 25、26 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



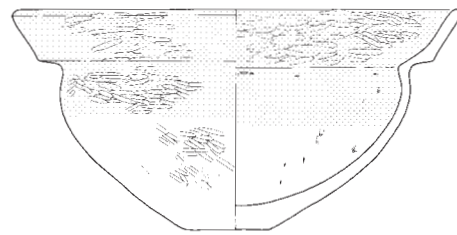
1



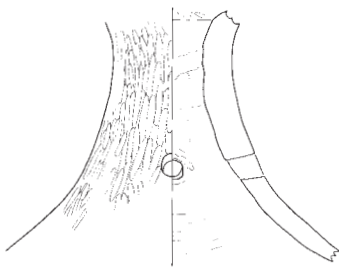
2



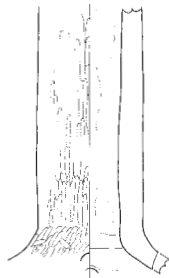
3



4



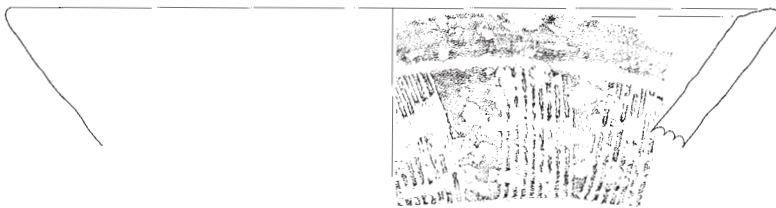
5



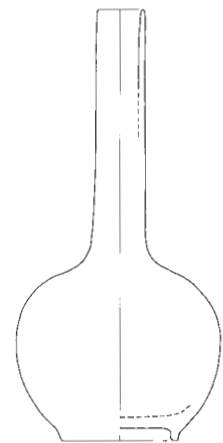
6



7



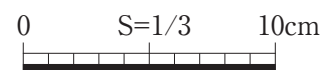
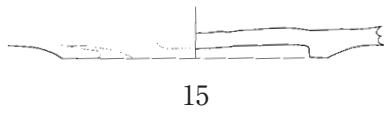
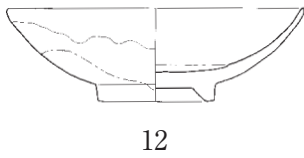
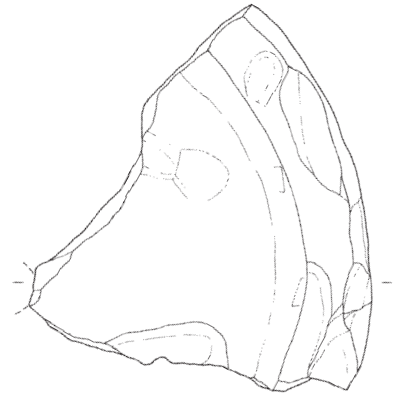
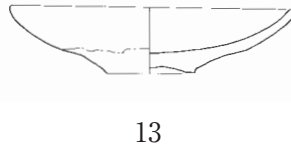
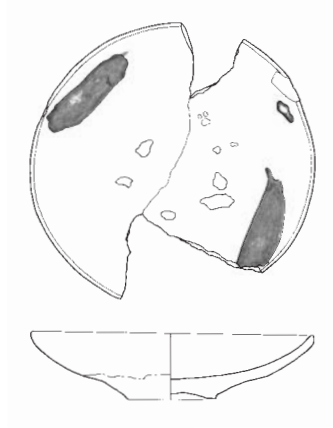
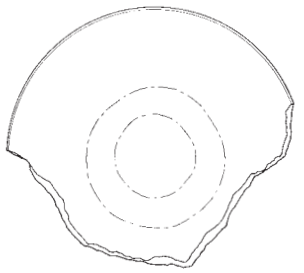
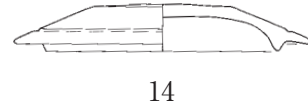
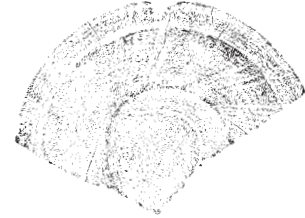
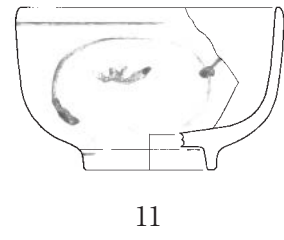
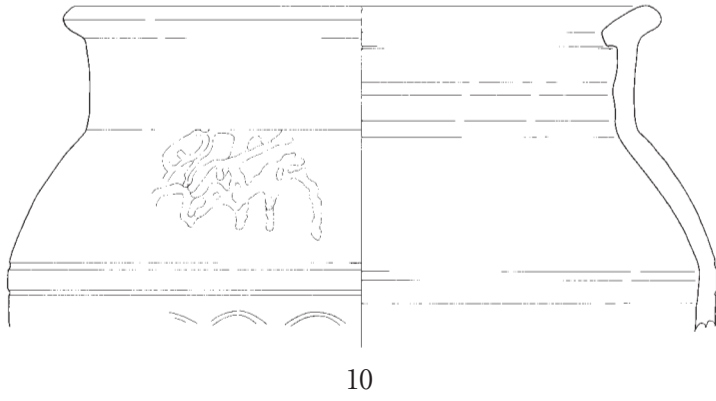
8



9

0 S=1/3 10cm

第11図 遺物実測図1 (S=1/3)



第 12 図 遺物実測図 2 (S=1/3)

- ・SD 27 (第3図)  
W3° S の方位をした溝である。幅約 115cm、長さ約 340cm、深さ約 35cmを測る。
- ・SK 28 (第3図)  
略隅丸方形で南端は調査区外となる。東西長約 130cm、南北長 150cm以上、深さ約 30cmである。
- ・SK 29 (第3図)  
略楕円形で南端は調査区外となる。東西長約 145cm、南北長 145cm以上、深さ約 40cmである。

## 第2節 遺物

1～6は弥生時代後期後半の土器である。いずれも SII6 からの出土である。7は瀬戸焼天目茶碗、8は加賀焼すり鉢、16は石臼の上臼で、14～15世紀の所産である。9～15は近世後半の国産陶磁器である。

## 第3章 総括

本調査では、弥生時代後期、中世、近世の遺構・遺物を確認した。弥生時代では竪穴建物1棟を検出している。本調査区より南西約 500 mには、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の竪穴建物約 30 棟存在する集落の中心がある。本調査区で確認した竪穴建物一帯は当該時期の集落の縁辺部にあたると思われる。中世は 14～15 世紀を主体とする集落跡が存在する。本遺跡では当該時期の掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸跡で構成される宅地が各地に点在しており、SK19、26は当該時期の井戸跡と考えられ、本調査区にも宅地の一端が存在するようである。近世は、本調査区で最も多くの遺構・遺物を確認した。遺構では、土坑、溝などを検出し、遺物では肥前陶磁器が数多く出土した。これらの遺構群は、本調査区南方に位置する現在の二日市集落の前身にあたると思われる。

### <参考文献>

- 垣内光次郎 1999「石の文化誌」『中世北陸の石文化I』北陸中世考古学研究会  
 2003『野々市町史 資料編1 考古 古代・中世』野々市町史編纂専門委員会  
 2012『野々市市二日市イシバチ遺跡(北陸新幹線建設事業)』石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター

第1表 土器・陶磁器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)	色調(外)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(内)			
1	SI16	弥生土器 甕	175	297	42	ヨコナデ、ハケ、ナデ ヨコナデ、ケズリ	明赤褐、にぶい黄橙、灰黄褐 にぶい黄橙、灰黄褐	口縁部 1/7、頸部 3/5 体部 1/7、底部 3/4	外面に煤付着 擬凹線7条、波状文	H 15
2	SI16	弥生土器 甕	193	240	36	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	橙、にぶい橙 にぶい赤褐	口縁部 2/3、体部 2/3 底部 全周	外面に煤付着 炭化物	H 16
3	SI16	弥生土器 器台	228			ミガキ ミガキ	にぶい橙、褐灰 にぶい橙	1/5		H 6
4	SI16	弥生土器 鉢	178	87.5	34	ミガキ ミガキ、ケズリ、ナデ	浅黄橙 浅黄橙	口縁部 3/4 頸部以下 全周		H 4
5	SI16	弥生土器 器台			柱状部径 47	ミガキ ミガキ、ハケ、ナデ	橙、にぶい黄褐 にぶい黄褐、橙	1/3	透し穴2孔	H 7
6	SI16	弥生土器 高杯			柱状部径 42	ミガキ ハケ、ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	柱状部元 1/2 柱状部 1/5	透し穴2孔	H 8
7	包含層	瀬戸焼 天目茶碗	150				黒褐、褐 暗褐	1/9	内外面鉄釉	H 1
8	包含層	加賀焼 摺鉢	307				橙 橙	1/4		H 10
9	SK2	白磁 花生	19	171	46		灰白 灰白	完形		H 2
10	SK10	越前焼 甕	237				暗褐、黒褐 暗褐	1/3	鉄釉	H 3
11	包含層	肥前陶器 碗	106	64.5	53		灰 灰	口縁部 1/4、体部 1/3 高台部 1/3		H 11
12	SD15	肥前陶器 碗	118	37	46		灰白 灰白	口縁部 1/2弱 高台部 全周	蛇ノ目釉はぎ 銅緑釉	H 12
13	SK3	唐津焼 皿	112	27	36		灰オリーブ 灰オリーブ	口縁部 3/4 高台部 全周	胎土目 鉄釉	H 13
14	包含層	土師器 蓋	118	19		ヨコナデ ヨコナデ	橙 橙		回転ヘラ削り	H 9
15	SK3	信楽焼 皿			105		浅黄、にぶい橙 浅黄	高台部 1/3		H 14

第2表 石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
16	P5	石臼 (上臼)	310		69	980	凝灰岩		H 5



平成20年度調査(A区) SD1~SK18完掘状況 東から



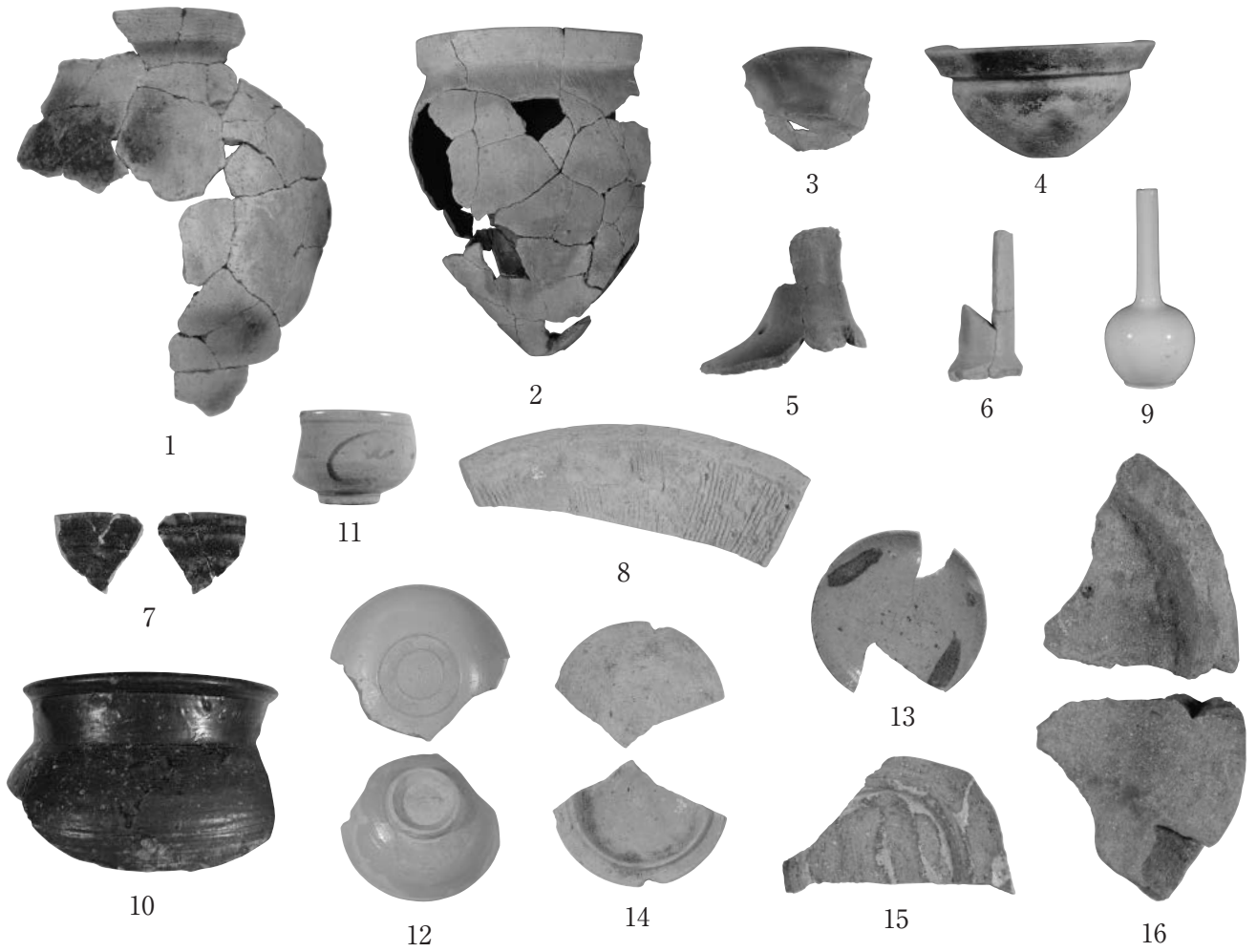
平成20年度調査(A区) SI16完掘状況 西から



平成25年度調査(B区) SK19~SK26完掘状況 東から



平成25年度調査(C区) SD27~SK29完掘状況 東から



## 報 告 書 抄 録

ふりがな	ふつかいちいしばちいせき6							
書名	二日市イシバチ遺跡6							
副書名	二日市町2号線歩道整備工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	田村 昌宏							
編集機関	野々市市教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 Tel: 076-227-6122							
発行機関	野々市市教育委員会							
発行年月日	西暦 2015年3月28日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
フリガナ 二日市 イシバチ イセキ 遺跡	イシカワケン 石川県 ノノイチシ 野々市市 フリガナ 二日市	17344	1201700	36° 32′ 25″	136° 35′ 45″	2008.6.25 ? 2008.7.9	100	記録 保存 調査
				36° 32′ 27″	136° 35′ 49″	2013.7.30 ? 2013.8.23	152	
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	集落	弥生、中世、近世		竪穴建物1 土坑19 溝5		土器、陶磁器、石臼		
要 約	<p>本調査区では、弥生時代、中世、近世の集落跡を確認した。弥生時代は後期後半の竪穴建物の一部を検出した。中世は土坑や溝を確認した。土坑の中には井戸の可能性が高いものが認められ、調査区内は宅地の一角にあたると考えられる。近世は土坑等を検出した。本調査区南隣に所在する二日市集落は江戸時代に成立しており、その集落の一端にあたると考えられる。また、本調査区に隣接して、石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センターが発掘調査しており、今回確認した遺構の延長部をみることができる。</p>							

2015年3月28日 発行

二日市町2号線歩道整備工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

### 二日市イシバチ遺跡6

著作権所有 石川県野々市市三納一丁目1番地

発 行 者 野々市市教育委員会

印 刷 者 石川県野々市市矢作三丁目18  
高桑美術印刷株式会社